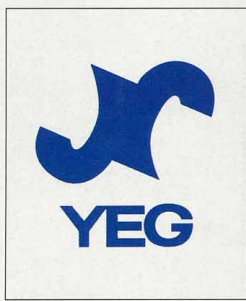


翔生 (しょうせい)

Symbol Logomark これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young



発行 全国商工会議所青年部連合会
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7487

平成10年
(1998年)
3月号
通巻 第24号
(年2回 3月・8月発行)

編集 広報委員会

担当副委員長 河井志遠
委員長 長瀬明志
副委員長 齋藤科 委員 山本基宏
委員 秋前田 委員 徳島基宏

Entrepreneurs Group)の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト (若さ、情熱、広い視野をもった経営者=Youth, Energy, Generalist) を表しています。

平成10年度役員のご挨拶



あの一山が11月22日、全国大会・徳島大会の早朝、大手証券会社の山一証券の経営破綻が報道されました。「まさか、一やっぱり」

国民それぞれへの思いは違っても、日本経済の先行き不安が増したことはまちがいないと思います。戦後50数年を経て高度成長期・バブル期にあつた枠組みは大きく変貌しようとしています。今までの日本の経済社会を支えてきた、ノウハウやシステムがグロ



北島 重利

役に立つYEGへ
平成9年度は、拓銀・山一証券の破綻に見られる様に金融システムへの不安、そして地価の長期下落・株安等日本の経済システムが危機に陥つた年でありまし

そのような中、平成10年度の全国商工会議所青年部連合会はスタートする訳ですが、吉本会長の本年のスピーチを拝見するに果敢に行動する必要があると思われま

今、まさにサバイバル時代

平成10年度商青連会長 吉本 博次

バル競争や世界的な環境の変化に通用しなくなってきたので、今、まさにサバイバル時代です。

日本経済を支えてきた、中小・零細企業が経済社会の変化に的確かつ迅速に対応し、今までの企業努力を積み重ねなければならぬ。今年も昨年に引き続き、規制緩和やビッグバンといったグローバルな問題や、新業態の発生等がマスメ



六本木信幸

全国3万名を越える会員相互の経営資産・経営情報の共有化をはかり、融合化をめざしていくところに新産業創出の力があるとの確信をしております。その確信には、会員相互の理解と単

そのような中、平成10年度の全国商工会議所青年部連合会はスタートする訳ですが、吉本会長の本年のスピーチを拝見するに果敢に行動する必要があると思われま

そのような情勢の中、我々自分の企業や事業を進める事が必要とされているのは勿論のこと、もしもその流れを読み違えれば、そこには選別と、淘汰がま

こんな時代だからこそ地域の総合経済団体である商工会議所が地域のリーダーとして、その構成員である我々全国YEGが積極的に



田口 元美

平成9年度はヤングリーダー研修と翔生塾(たいへんお世話になりました。ありがとうございました。さ

平成9年度はヤングリーダー研修と翔生塾(たいへんお世話になりました。ありがとうございました。さ

リーダーシップを取りバイタリティー溢れた活動を展開しなければなりません。全国商工会議所青年部連

15年前に全国に点在する商工会議所青年部を全国組織にしようじやないかと、言う諸先輩方の思いは、まさに、出会いから連携、連携から共生に、全国に広



松本 晴之

平成10年度、吉本会長のもとで、副会長(西地区担当)をさせて頂くことになり、それまでの、連絡調整としての役割から、「事業」の展開へと変化して参

平成10年度、吉本会長のもとで、副会長(西地区担当)をさせて頂くことになり、それまでの、連絡調整としての役割から、「事業」の展開へと変化して参

今、この厳しい時代、皆さんは「守り」にはいつていませんか。守ること、それさえも大変難しく感じ

そんな時代だからこそ、自企業発展の為にワンステツアプローチした企業努力を望みます。そして地域の活性化の為に、熱き思いの一步を踏み出して頂きたいと思



東浦 右智

山車のまち・蔵のまち・新美南吉童話のまち・港のあるまち、東海ブロックは愛知県の半田YEGより出向いたします。商青連と全

山車のまち・蔵のまち・新美南吉童話のまち・港のあるまち、東海ブロックは愛知県の半田YEGより出向いたします。商青連と全

平成10年度商青連役員 (敬称略)

商青連役員		青年部(県名)	
氏名	所属	氏名	所属
吉本 博次	奈良(奈良)	大宮 隆夫	奈良(奈良)
直前会長		大村 晴利	奈良(奈良)
会長		北島 重利	徳島(徳島)
副会長		六本木 信幸	伊勢崎(群馬)
		田口 元美	各務原(岐阜)
		松本 晴之	米子(鳥取)
		東浦 右智	半田(愛知)
専務理事		羽澤 純男	登別(北海道)
プロトック代表理事		千葉 富士夫	古川(宮城)
		新 精一	深谷(埼玉)
		伊藤 正孝	須坂(長野)
		加藤 正秀	豊川(愛知)
		野村 裕伸	鯖江(福井)
		河村 雅	小野村(山口)
		又吉 正信	高知(高知)
		久留米 福岡	浦添(沖縄)
総務委員長		山本 吉己	袋井(静岡)
企画委員長		伊藤 孝一	松江(鳥根)
研修委員長		河波 忠兵衛	京都市(京都)
特別委員長		佐々木 正光	秋田(秋田)
加城 祐史	網走(北海道)		
倉橋 純造	青森(青森)		
高橋 弘司	花巻(岩手)		
石澤 聡	天童(山形)		
大坪 均	いわき(福島)		
永井 隆	水戸(茨城)		
佐々木 正光	秋田(秋田)		
藤原 孝一	今西(奈良)		
村田 茂隆	足利(石川)		
宇井 成一	石破(福島)		
山本 吉己	森下(福山)		
原山 博臣	藤岡(群馬)		
米田 隆彦	佐原(千葉)		
篠田 好充	茅ヶ崎(神奈川)		
徳古 眞	新津(新潟)		
	新妻(富山)		
	各務原(岐阜)		
	鳥羽(三重)		
	大津(滋賀)		
監事			
白井 修	河内(大阪)		
古川 博	京都市(京都)		
	八尾(大阪)		
	高砂(兵庫)		
	高良(奈良)		
	橋本(和歌山)		
	伊藤 達己		
	松江(鳥根)		
	山下 裕平		
	坂出(香川)		
	今治(愛媛)		
	久留米(福岡)		
	伊方(長崎)		
	熊本(熊本)		
	佐伯(大分)		
	宮崎(宮崎)		
	鹿児島(鹿児島)		
	鹿児島(鹿児島)		

報告 やったネ!この一年 委員会 直接交流・直接実感

総務委員会

総務委員長(豊橋 YEG) 織田 喜詳

本年の商青連総務には、大村晴利会長から至上命令がありました。「今年も理事さん50余名は新任が85パーセント以上だ、遅くとも4月スタートには、全員が眼が柔らかく、笑顔があり、人間味溢れる明るい会議をやる」とした。会議は、月々の役員会と会員総会(全国大会、全国会長研修会)があり全て総務が担当です。まず月々の役員会ならば、定刻スタートを心がけ、日本商工会議所会議室の机の配置、役職の並び順、マイク、名札の据え付けをやり、一発目に笑顔と笑いを求めた総務委員長担当の開会の辞等。至上命令達成の為、いろいろ考えてやりました。徳島の全国大会会員総会も同様です。その他は、日商会議と懇談会・企画・規約改訂草案作成・ブロック大会開催支援・会員増強と財政問題の検討等々。私達にとって商青連

は良き勉強の場でありました。

企画委員会

企画委員長(青森 YEG) 後藤 薫

本年の企画委員会は、①第17回全国大会(徳島大会)への指導・助言、②第15回全国会長研修会(掛川)への指導・助言、③平成11年度全国大会、平成10年度全国会長研修会の立候補届の審査および検討、ならびに④全国大会における物産展・ビジネス交流プラザに対する指導・助言を活動内容とした。

①については、1月の役員予定者会議での現地視察を実質的なスタートとして、2・3・4月の各委員会での検討、および4月の主管地実行委員会との打合せを踏まえて、5月の役員会に

- 委員長 織田 喜詳 (豊橋 YEG)
 委員 辻 博明 (宇都宮 YEG)
 林寺 篤 (八日市 YEG)
 野村 裕 (高知 YEG)
 平江 俊和 (神縄 YEG)
 木川総一郎 (松戸 YEG)
- 専務理事

- 委員長 後藤 薫 (青森 YEG)
 委員 藤田 根中 (北安徳 YEG)
 担当副会長

研修委員会

研修委員長(山鹿 YEG) 宮川 卓久

この研修事業は、平成7年度から始まり、今年で3回目を迎えるわけですが、日商の21世紀へのアクションプログラムの一つとして「後継者育成、経営者として「の資質向上」のための研修を目的としており、日商の福業会より「翔生塾」と命名していただきました。少数精鋭を基本とする塾で、寺子屋方式でとことんじつ



研修委員会の活動の様子

「地域でのリーダー」「自企業の経営者、後継者」によりレベルの高い地域、日本、世界の「オンリーワン企業」を目指したプログラムを企画いたしました。講師の講義を聴くだけでなく、一つの企業をモデルとして、いかに成功したか、いかに失敗したのか、グループごとに分析し、困難な状況の中で事業はどのようにしたら成功するかを具体的に討議するケーススタディを取り入れました。

- 委員長 宮川 卓久 (山鹿 YEG)
 委員 山鹿 卓久 (山鹿 YEG)
 佐原 美孝 (各務原 YEG)
 久保 聡 (光 YEG)
 田中 西大 (鹿島 YEG)
 宇野 西大 (鹿島 YEG)
- 担当副会長

特別委員会

特別委員長(岡山 YEG) 八木 秀和

今年度で3年目を迎えた特別(連携)委員会の活動報告をします。*中央官庁への訪問 昨年5月13日、特別委員会はYEG連携の推進を報告し、そして地域連携や今年度始めた同業種連携の取り組み方を模索しアドバースを得るために、各小委員会ごとに関係所轄中央官庁を訪問し、若手官僚と活発な意見交換を行った。

また、研修もさることながら、交流会は力を入れました。全国各地区の質の高い参加メンバーが一堂に会い、情報交換を行い、交流と連携を図ることができました。これから、このネットワークを生かし、各地、各社の事業に役立てば幸いです。

記念誌特別委員会

記念誌委員長(米沢 YEG) 松本 晴之

記念誌特別委員会は、商青連発足15年目を迎える「商青連15年記念誌」を作成することになりました。商青連では、過去に5周年記念誌「明日への挑戦」と2回記念誌を発行しております。商青連発足10年、15年のこの6年間で、商青連の規定・議事運営マニュアル、全国大会・会長研修会の持ち回り規定制定や見直し、ブロック大会の名称や内容の変更など、組織の内部強化が充実されてまいりました。どうか、我々委員会の内部強化が充実されてまいりました。どうか、我々委員会の内部強化が充実されてまいりました。

- 委員長 松本 晴之 (米沢 YEG)
 委員 猪俣 啓介 (登別 YEG)
 五来 敬一 (日立 YEG)
 玉置 貴彦 (田辺 YEG)
 黒木 敏之 (高鍋 YEG)
 河井 達志 (鹿島 YEG)
- 担当副会長

平成9年の1月から記念誌特別委員会は、企画・取材・編集・校正と、全国各地で委員会を度々開催し記念誌の作成につとめて参りました。どうか、我々委員会の内部強化が充実されてまいりました。どうか、我々委員会の内部強化が充実されてまいりました。

- 委員長 松本 晴之 (米沢 YEG)
 委員 猪俣 啓介 (登別 YEG)
 五来 敬一 (日立 YEG)
 玉置 貴彦 (田辺 YEG)
 黒木 敏之 (高鍋 YEG)
 河井 達志 (鹿島 YEG)
- 担当副会長

広報委員会

委員長(魚津 YEG) 浜多 等志

今年度広報委員会は、翔生23号、24号を発行させて頂きました。今年の翔生の特徴は連携ということで姉妹提携YEGを掲載いたしました。写真をふんだんに使用し読みやすい冊子を目指しました。原稿の締切を協力頂きどうもありがとうございました。

9年度商青連広報委員会は、翔生23号・24号を7月と3月に発行することを決めました。原稿の締切を協力頂きどうもありがとうございました。

- 委員長 松本 晴之 (米沢 YEG)
 委員 猪俣 啓介 (登別 YEG)
 五来 敬一 (日立 YEG)
 玉置 貴彦 (田辺 YEG)
 黒木 敏之 (高鍋 YEG)
 河井 達志 (鹿島 YEG)
- 担当副会長

- 委員長 八木 秀和 (岡山 YEG)
 委員 藤田 根中 (北安徳 YEG)
 担当副会長



YEG 新たな出版

今はただ感謝のみ そして明日に向かって!!

徳島全国大会報告



全国大会 大会会長 北島 重利

今、第17回商工会議所青年部全国大会を終え、改めて大会を振り返ると、様々な出来事が走馬灯のように私の頭の中を駆け巡ります。私自身、徳島YEGに入会して4年と経験が浅く、また、殆どイベントなどして全国大会を誘致した事自体間違っていたのではないかと考え込む事も度々でしたが、引き受けてしまったものは仕方がないと聞き直り、2年前の全国大会大宮大会終了後、組織づくりから始めました。

過去の大会を参考に、12委員会(部会)を設置し、また、徳島県連の他単会の位置付けも明確にし、わずか6単会350名ですが、徳島県連全員が主管するという体制を整えました。そして記念事業(記念講演)から「ヤングアントレプレナー」と「世界に目を向けた大会」という2つのキーワードに基づき、色々と途中経過はありましたが、

最終的には世界的なレベルで活躍している徳島の4企業の見学及び社長講演に決定しました。特に人気のあったジャストシステムについては、当初は無理と言われた浮川社長本人の講演をいただくことができ、ありがたく思っています。

大会参加者が楽しみにしている大懇親会では、「最後まで楽しめる」と「全員が参加できる」という2つのテーマを掲げ、思い切った懇親会場に1200名の豊を敷き詰め、座って懇親会を楽しむという、今までの大会とは違った雰囲気を感じました。又、阿波おどりやブラジルのサンパチーリの競演により全員が参加できるようなアトラクションも企画されました。



大会式典については、スタンダードな形式に加え、スライドで商連15周年という節目を表現しました。またおもしろ物産展については、市民農産にアピールするために徳島市の中心商店街のそばの新しい公園で開催し、また、阿波おどり・アマチュアバンド等のイベントも企画・実施しました。

も、様々な問題もありましたが、徳島YEG・徳島県連メンバーで知恵を出しながら、企画・実施しました。この大会の総括をするにあたり、企画不足・人員不足・能力不足など、人員不足・能力不足もありましたし、色々な失敗もありましたし参加していただいた全国のYEGのメンバーにも見えない部分で迷惑をおかけない部分で思っています。

- 「事業報告」
- 登録者数：2,661人
- 参加人数
- 親睦ゴルフコンペ：60人
- 前泊者懇親会：136人
- 記念分科講演会
- 株式会社システム270人
- ㈱大家製薬工場：185人
- 日亜化学工業㈱：38人
- ㈱河野メロン：85人
- 阿波の文化探訪：154人
- 業種別分科会：50人
- エコカレッジ
- エコアクション
- 親睦ゴルフコンペ：60人
- 活き生き粋な交流、幸福(しあわせ)実感：71人

「YEGヤングリーダー研修」

研修委員長 宮川 卓久

本年、商青連は設立15周年という大きな節目を迎えるにあたり、年間スローガンを『「直接交流・直接実感」連携そして共生へとYEG新たな出発』と掲げ、創成期から円熟期へ、そして21世紀への新たな出発点と位置づけしております。その新しい時代への第一歩となる大きな事業の一つが、今年度スタートした「YEGヤングリーダー研修」であります。

各地商工会議所青年部会員の若手経営者又は後継者の資質向上を図ると同時に、全国規模にて、交流と研鑽を通じて地域や各単会の次代を担うリーダーの育成を目的に実施しました。

なぜならば、各単会で団魂の世代が卒業し始めている昨今、次世代を担う若手メンバーのレベルアップを図ることに、そして全国ネットのすばらしさを直接肌で実感できる機会を提供したい。大変だけれども、誰かがいつかやらなければならないのなら、今年度取り組もうという大村会長の熱い思いからスタートした研修事業であります。

しかし、初めて取り組む事業であり、頭の中では理解できていても、具体的にどんな内容にしたらいいのか、参加者に満足いただけるのかを研修委員会担当の足立副会長と共に委員会を幾度となく開催し、少しでも大村会長の思いが実現できるような研修にしたいと思いついて参りました。

第1回目の研修が、6月で早い時期の開催ということもあって2月の岩見沢の会長研修会の頃から、本当に度重なる委員会を開催いたしました。そして驚いたのが、いつも100パーセントに近い高出席率でした。そういう委員会を開催することに、私がひそかに実感したことがありました。

そして、委員を交える6名の副委員長の皆さんが、「我々に任せられた事業である。なんとしても必ずやり通し、成功するんだ。」という強い意志が感じられるようになりました。委員長として心を締め直さなければいけないという思いがこみ上げてきたものでした。

そして、何といっても経験豊富な足立副会長の存在は本当に大きかったと思います。委員会メンバーが、暗礁に乗り上げる度に突破口を開いて頂きました。口では厳しいことを言われますが、常に参加者のためを思っていることで、心の優しい人であることを知りました。

事業活動に入りますと、出向理事、ブロック代表理事、県連会長、各単会の会長を通じて全国の単会への周知活動を展開いたしました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当に有り難うございました。お陰様を持ちまして予想を上回る273名のご参加を頂きまして、東京、大阪、徳島の3会場で大変に開催することができました。

研修、講演会、実務、そしてパネルディスカッションなど内容を盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流会も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを確信いたしました。

本年度、「YEGヤングリーダー研修」の企画並びに開催に携わって、いろんな経験と勉強をさせていただきました。また、いろんな人と接する中で、その人の本当の人物を知ることができたような気がいたしました。そして、本年度、研修委員長というポストを私に任せて頂きました商青連大村会長にお礼を申し上げて報告とさせていただきます。



YEGヤングリーダー研修
主催 全国商工会議所青年部連合会 後援 日本商工会議所

大歩危・小歩危から高知へ………23人
鳴門・明石海峡大橋を望んで神戸へ………37人
YEGビジネス交流プラザ………22企業
YEG全国まらおこし物産展………60企業

委員(秦野YEG)
秋山 純夫
私は、広報委員会の東京特派員として活躍の場を戴きました。おかげで日経エニチャーのセミナー、自民党議員との懇談会、そして「伸びゆく大地」の作詞者、作曲者の先生方の取材等を通じて、多くの素晴らしい方々と出会い、大いなる啓発を受けることができました。この委員会に配属されたことを幸せに思っています。

委員(大町YEG)
倉科 誠
初めて予定者会議に出席したときはとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、委員会のメンバーの皆さんが、私の不安を打ち消して下さり、安心して参りました。

委員(魚津YEG) 等志
委員(古川YEG) 基
委員(米沢YEG) 明彦
委員(秦野YEG) 純夫
委員(大町YEG) 誠
委員(唐津YEG) 恭宏
委員(鹿兒島YEG) 達志

広報委員会委員
担当副会長 河井

のでした。今は、すばらしい体験をさせていただいた皆様に感謝しております。私個人としては第三子も生まれ、一生でも決して忘れられないことのない1年となりました。お世話になりました。ありがとうございました。ありがとうございました。

直接話そう!! 直接交流しよう!! 姉妹提携

YEG パートII

〈高岡YEG〉

岐阜県関市商工会議所青年部との交流は、昭和55年8月に関市より20名が視察研修を目的として来高されたことから端を発している。

その後、昭和57年10月の高岡での第2回全国大会において旧交を暖め、引き続き意見交換や野球、ゴルフ等のスポーツ交流を行ってきた。

昭和59年9月関市において、第2回東海近畿ブロック運営研究会が開催されたのだが、それを機に、その前日に両青年部会が姉妹青年部会の締結をし、調印を行った。

その趣旨は、「積極的に一体的な行動を起こすことによって、各々が地域経済の健全な発展を図る」という青年経営者の使命をはたすことができるという所にあった。

この日(昭和59年9月17日)、高岡部会から上田博会長をはじめ約40名、関部会からも約40名が出席し、関商工会議所3階ホールにおいて調印式が行われたのだが、関部会が姉妹部会として選定に至ったのは、岐阜県関市が「刃物」のまちとして有名で「伝統産業を有する」「都市環境に類似点がある」「お互いに交流が深い」という根拠があったからである。

その後、関青年部と高岡青年部は今日まで記念事業やイベントその他、委員会単位での勉強会等の交流を継続している。

昭和63年、関部会は10周年を迎え、その記念誌には関市長らの祝辞と共に、当時の会長第29代会長高田一二三氏の10周年に対する祝辞が見られる。

平成6年には、姉妹青年部となって10周年を迎え、お互いの青年部の更なる飛躍を祈念し、関には「越の彼岸桜」高岡には「花水木」をそれぞれ記念植樹している。

今後は、両市の経済交流を活発に進め地域経済の発展に貢献するために、具体的な即効性のある勉強会等も計画していきたい。



〈高鍋YEG〉

平成9年12月3日。終戦の混乱が癒えぬ昭和22年に高鍋商工会議所が誕生し、50年の歳月が流れた記念の日に、創立50周年記念式典のメイン行事として、約230名の出席者に見守られ、米沢YEGと高鍋YEGの21世紀を担う青年たちが、友好姉妹青年部連携調印式を執り行ないました。調印式には、遠く米沢から淀川常務理事、青年部斎藤会長以下4名がはるばる駆け付けてくださり、厳粛な中にも盛大に行なうことができました。

調印書「新たな青年経済人としての友好関係を構築することにより、互いに切磋琢磨し、商工会議所青年部

の使命である次代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもつて豊かで住みよい郷土づくりに貢献することを盟約する」にサインをし、両YEG会長が固い握手を交わすと、記念式典会場に拍手が巻き起こり、両YEGの連携に対する期待の高さを痛感しました。

米沢市と高鍋町の友好の歴史は古く、今から240年前、名君上杉鷹山公が米沢に移られて以来続いていますが、その240年のときを超えた先人たちが築いてこられた友好の歴史を大切に、今後、地域の商工業の発展を目指して、皆様のご期待に添うべく連携活動を行なっていくことを決意した次第です。

〈関YEG〉

昭和54年、関YEGは、関商工会議所会頭のお力添えで産声をあげました。当初私たちは、商工会議所青年部というものがよく解らなかった為、青年部の先進地であった高岡YEGをお手本にして、組織や規約等の基礎を作るよう、昭和56年より交流をお願いして現在の原型を作っていたのです。

昭和59年、当時の高岡・関YEGの会長の発案で姉妹提携を結ぶ事となり、9月17日、関で調印式を行ないました。以来互いの周年記念に出席するのはもとより、視察旅行・スポーツ交流・ゴルフ等でも友情を深めてまいりました。平成6年には、姉妹提携10周年を記念して植樹を高岡・関両市で行ないました。平成8年度関YEG主管で行なわれました東海ブロック大会にも、高岡YEGから参加頂き、良い関係を築いています。

来年度、関YEGは創立20周年を迎えます。やっと大人の仲間入りといったところです。今までの兄弟みたいな良い関係を大切にすることはもとより、一日も早く大人の高岡YEGに肩を並べられるよう、レベルアップに努めたいと思っています。「本年度関YEGの事業」

本年度関YEGは、会員のレベルアップの為に充実した例会をめぐっています。5月には、大ベストセラー「脳内革命」の春山茂雄氏を講師に迎え例会を開催し、関市民へのYEGのPRと、還元を目的に、オープン例会として一般の方へも無料公開とし、1,000名以上の参加を得る事ができました。「関の特産品」

関と言えば、名刀「関の孫六」に代表される、ナイフ・包丁等の刃物が有名です。その中でも、今話題は、リサイクルハサミです。以前、商青連に出向していました長谷川義君の会社で作っているもので、ペットボトルや、切りにくい牛乳パックの角が簡単に切れたりする便利なハサミです。



〈氷見YEG〉

①姉妹提携時期 平成6年8月20日(土)

②いきさつと目的 姉妹YEGのある長野県大町市と氷見市とは昭和47年11月より姉妹提携を結び、当時は交流が盛んであったものの、ここ数年は若干の行き来があるだけであった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、氷見・大町のYEGが両市のパイプ役を担うため姉妹YEGの提携を結んだ。そして、その先には海の都市氷見と山の都市大町という異都市との交流を図ることで、流通交流及び文化等の交換・伝達を願っている。

③メリット イベント・まつりそして、青年部事業において気軽に相互参加できることで、自市のPRが簡単にでき、また参加要請をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

また、現在では青年部という垣根を越え、個人一家族としての交流を行うことができるようになっていく。

④姉妹事業の現状 イベント・まつり等はもちろん簡易な勉強会等にも相互に参加しており、また今年



度は合同家族例会も予定している。

⑤将来展望 交通事情、情報化等の発達を見越した活動を起こすため、現在の交流をより一層発展させ、青年部の活性化はもちろん、自企業の、そして地域の活性化を目指して邁進して行きたい。

⑥新規提携の計画 現在姉妹提携の予定はありませんが、岐阜県各務原のYEGと交流を図っています。(東海北陸自動車道の開通を見越して)

⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等

- ◆事業…氷見商工感謝祭、ひみまつり、ひみ魚まつり、まるまげまつり、ひみキトキト元氣村、ひみキトキト魚大学等
- ◆特産品…氷見イワシ、寒ブリ等の鮮魚、塩干物、氷見牛、氷見うどん、銘酒、大敷納・鱈起こし
- ◆ミスコン…青年会議所が中心となり氷見祭り(8月)に決定している。ミスは3名決定し3名とも「ミスキトキ」と称される。

☆昨年のミスは、上の3名です。



①姉妹提携時期 平成6年8月20日

②いきさつと目的 長野県大町市と富山県氷見市は昭和47年11月より姉妹都市として調印したが、行政間の交流は若干あるものの民間レベルでの交流はほとんどなかった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認をするべく、大町・氷見のYEGが両市のパイプ役となり、「まずは経済界からの交流」ということで姉妹YEGの提携を結んだ。

これは、単に経済交流だけでなく、山の都市大町と海の都市氷見という異都市間の交流を図ることで、人と人との繋がり、地域文化の交換・伝達を願っている。

③メリット 各種イベントや青年部事業において相互参加できることで、他都市の見聞が出来たり、自市のPRが簡単にできる。また参加要請をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

現在はYEGの垣根を越えて一個人、一家族としての交流が行われている。

④姉妹青年部の現状

〈大町YEG〉

両都市で行われている各種イベントへの参加はもちろん両青年部事業へも参加している。今年度は、氷見YEG開催の家族例会への参加を計画している。

⑤将来展望 今後は現在行われている交流から一歩前進するように、より活発な青年部活動を展開する。また、青年部同志の交流はもちろん個人同士の交流も活発に行い、両地域の活性化に結びつけたい。

⑥新規提携の計画 なし

⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等

- ◆事業…エリアサミット・イン・おおまち、講習会・勉強会等、大町桜祭り、大町やまびこまつり、他に行政・会議所事業への協力
- ◆特産品…信州そば、りんご、松崎和紙、おさなご、地酒(白馬錦・金欄黒部・北安大国)
- ◆ミスコン…ミスコンは現在行っていないが、大町の観光案内役として大町レディース(かたくり、こまきさ、アルプス)3名が4月から3月まで1年間活動している。

♥姉妹YEG

- 高岡(富山)—— 関(岐阜)
- 氷見(富山)—— 大町(長野)
- 魚津(富山)—— 横須賀(神奈川)
- 黒部(富山)—— 浜田(島根)
- 水戸(茨城)—— 敦賀(福井)
- 洲本(兵庫)—— 大田(島根)
- 江戸川(東京)—— 鶴岡(山形)
- 長門(山口)—— 米子(鳥取)
- 別府(大分)—— 指宿(鹿児島)
- 大村(長崎)—— 沖縄(沖縄)
- 米沢(山形)—— 高鍋(宮崎)

〈米沢YEG〉

上杉鷹山公まつりでのイベント



米沢YEG(山形県)と高鍋YEG(宮崎県)では友好姉妹青年部連携を締結、去る12月3日高鍋町において調印式を執り行いました。

高鍋藩と米沢藩が上杉鷹山公の養子縁組を結んだことから端を発し、二百数十年の月日を経た現在でも、両青年部はこの歴史的関係を傳承し、交流を深めて参りましたが、今年度スローガン『直接交流・直接実感』

連携そして共生へ YEG新たる出発』に基づき、地域連携事業の第一歩として正式に友好の盟約を取り交わしたものです。

調印式では米沢YEG斎藤会長と高鍋YEG鈴木会長が青年経済人同士友好関係を築いていくことにより、互いに切磋琢磨し、両地域の経済的発展に寄与することを誓い合いました。



一年を振り返って

ありがとうYEG仲間

平成9年度商青連会長 大村晴利



平成9年度もまもなく終わろうとしております。今年一年間全国のYEGに大変お世話になりましたこと、この紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。有難うございました。

組織改革また一歩前進

前年の松田会長を引き継ぎ、組織改革の3年目にあたり副会長の役割の強化とブロック代表理事（9名）の執行部としての立場を確立させました。正副会長・ブロック代表理事・委員長と協議を新たな設け、各ブロック連合会（連絡協議会）の長であるブロック代表理事にも商青連の動き、各委員会の事業ならびにその進捗状況等の御理解を頂き、各ブロックに伝達していただき「見える商青連」とするために「尽力頂きたい」と考えました。9名のブロック代表理事の方々には、見事なまでに各々のブロックと商青連とを結び掛け橋として行動をさせていただき、その役割と立場の確立をしてくださいました事、心から御礼を申し上げます。

15年記念誌の発行

商青連が設立されて5年目に「明日への創造」、そして10年目に「翔けYEG」という記念誌が5年周期です。2回発行されています。それを受けて15年の節目として3冊目の記念誌の発行することを決定しました。記念誌特別委員会を発足させ全国YEGの現状や歴代会長座談会等の

中、仕事量も例年よりはるかに多くなっているにも関わらず素晴らしい運営が生まれ、事業報告書等を刊行するなど、まさに節目の年の委員会としての姿勢を貫いて頂きました。それぞれの委員長には深く御礼を申し上げます。

どは今年一番の収穫であり、地方から発達された商青連が地道に続けてきた地域のYEG活動が中央の中心部にまで浸透し認知された年であったと思えます。5つの小委員会の中から新しい物流システムや商品の企画などが生まれようとしていました。担当副会長、委員長を中心に全国からお集まり頂いた委員の皆様へ感謝を申し上げますと共に、会長報告書の時々の発表と報告書を楽しみにしています。

世界への扉を開く

また本年度は初めて、アジア商工業所連合会（CACI）の要請で韓国・濟州島の第56回理事会に出席させていただきました。世界20ヶ国の代表の前で「日本におけるYEGの活動について」のスピーチをさせていただきました。スピーチを得、若し力の必要性を訴えてまいりました。参加中にはすでに青年部が設立されている国、設立準備中の国と様々でありましたが、このことにより、世界の青年部との交流と連携が必ず始まると思えます。まさに世界連携の出発点となる記念すべき出来事だったと思います。

YEGヤングリーダー研修

商青連は全国YEG単会から、そして会員から会費を頂き運営がされています。しかし、14年間の歴史の中でその活動内容等があまりにも認知されていない事に気がきました。それには幾つかの理由が考えられますが、やはり全国ネットの素晴らしさを各メンバーに伝えたいという思いのもと「見える商青連」の合言葉を発信し、各県連から1名という今までの出向者の概念を取り払い、各単会から1名の研修会への参加を呼びかけ50数名の役員と共に研修会に参加し、それも単発ではなく3回有意義で中味の濃い研修を受ける中で友情の輪を広げ、ネットワークを全国に張つてい

ただために、そして年に1度の全国大会を再会の場として参加意識を高めていただきたいという思いからYEGヤングリーダー研修を開催させていただきました。勿論アンケートと

この一年商青連会長としての、全力投球で私の思いのすべてをぶつけて来ました。「欲張り会長」と言われながらも、出向役員の皆様の絶大な「支援」協力を頂いた中、副会長、ブロック代表理事、委員長を引き受けていた方々には大変な感謝を申し上げます。一年の報告とさせていただきます。

20周年に向けて

する千年の思想を造る大いなる責任とチャンスのある持ち合わせています。素晴らしいYEGの未来へ、そして商青連の20周年に向けて「新しい出発」を本年度から、大きく「強く羽ばたいて頂いたら幸福であります。貴重な経験、体験をさせていたただいたことに感謝を申し上げます。一年の報告とさせていただきます。

アリガトウ
ゴザイマシタ。

明るく楽しくフレンドリーな商青連

また、役員会においては、総務委員長の司会のもと「明るく楽しくフレンドリー」をモットーに、わざわざ全国から貴重な時間と高なお金を使い集まってくれた役員が早く打ち解け合い、自由に意見交換が出来るような雰囲気作りをお願いをし、ユーモア溢れる運営の中、専務理事の絶妙な

と等、総務委員会をはじめ、本年度の出向理事の皆様にご感謝をいたします。広報委員会には、全国の会員に送られておけるおみかかわらないお読み頂けない「翔生」を一人でも多くの方に読んでいただけようという注文を出して初めて紙質も良くになり、全面オールカラーとなり、大変読みやすくなりました。全国の皆様方があま

りお交付にならないようなことも委員会では、少しでも良いものを作ろうと真剣に考えているのです。どうかこの年に2回発行の「翔生」を楽しみにしてお読み頂きたいと思っております。そして、各委員会も15年の節目としての事業展開の

同業種の小委員会の設立

平成9年度でもまもなく終わろうとしております。今年一年間全国のYEGに大変お世話になりましたこと、この紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。有難うございました。

YEGヤングリーダー研修

また、役員会においては、総務委員長の司会のもと「明るく楽しくフレンドリー」をモットーに、わざわざ全国から貴重な時間と高なお金を使い集まってくれた役員が早く打ち解け合い、自由に意見交換が出来るような雰囲気作りをお願いをし、ユーモア溢れる運営の中、専務理事の絶妙な

20周年に向けて

また、役員会においては、総務委員長の司会のもと「明るく楽しくフレンドリー」をモットーに、わざわざ全国から貴重な時間と高なお金を使い集まってくれた役員が早く打ち解け合い、自由に意見交換が出来るような雰囲気作りをお願いをし、ユーモア溢れる運営の中、専務理事の絶妙な

世界への扉を開く

15年記念誌の発行

組織改革また一歩前進

YEGへ 連携と共生を発信を続けるYEG

信幸君が、㈱ベスト電器代表取締役、北田葆光氏。日本青年会議所、経営開発プログラム委員会委員長、河合政実氏。とともにパネラーとして参加した。日経ベンチャー編集長、宮島克郎氏のコーディネートのもと、各々が事業承継の経験や理想的な事業継承に果すべき二世経営者としての役割を発表した。各人の所属する団体や企業をバックグラウンドに、その経験や体験を踏まえ、青年らしい夢を語ったことが印象的なパネルディスカッションであった。特に六本木君は、いつものアナウンサーのごとく滑らかな口調で、ユーモアを混ぜ、YEGの素晴らしさを十二分にPRした。決して身置でなく、内容、話術とも群を抜いていたことを皆様にお知らせしたい。後に、「行動力のあるYEGらしさを自分の体験を通じて、自分の言葉で語ったつもりです。YEGに対する期待感も会場の反応から感じることができました。」と語る。六本木君の感想に同感である。また6月12日には、自民党本部に於て、自民党商工部会所属の国会議員と商青連役員との懇談会が取り行なわれ、税制や労働問題等、多岐に渡って活発な意見交換がなされた。願わくば、我々の主張が国政の場で生かされることを期待したいと思う。

稲葉日商会頭との懇談会開催



「日本商工会議所会頭と 商青連役員との懇談会」

10月28日(火)東商スカイ
ルームにおいて稲葉会頭と
の懇談会が開催された。まず
専務理事より商工会議所青
年部の現勢、現況報告がな
された。続いて大村会長より
本年度のYEGヤング
リーダー研修、翔生塾、同
業者小委員会、各地プロッ
ク大会開催などの活動報告
並びに15年目を迎えた商青
連について抱負を述べた後、
懇談会により進んだ。
出席者により選定された
テーマは、①今後の景気と
中小企業②行財政改革と日
本経済の行方③産業界の期
待と問題点④規制緩和と中
小企業に与える影響、であ
る。

会頭の発言要旨(①)③
(を総括)

通産省、中小企業庁、経
企庁の幹部の方々と景気に
ついて話をすると産業界の
認識とは大きな違いがある。
企業倒産の大幅な増加、G
DP伸び率1%以下など景
気を示す指標は明らかに下
降局面にある。本年に入り
消費税UP、医療費負担増
特別減税廃止など9兆円の
国民負担増も加わり96年に
一旦上向いた景気を冷して
しまった。株式市場の急落
により一株当たりの純資産
を株価が下廻るのが一部
上場銘柄の33%、店頭市場
では52%もある。株式市場
が本来の資金調達機能を失
いつつあることを意味する
由々しき事態にある。中間
決算で銀行の株式評価損が
2兆54億円、他業種を含め

と莫大な数字だ。政府の
打出した34億円の景気対策
はあまりに小さいと言わざ
るを得ない。ゼネコン、大
手不動産も低金利政策でよ
やく息をついている。長
期国債先物の利回りも1%
台、6ヶ月先物の金利も下
ついている。マーケットが
先々も低金利政策をとりさ
るを得ないと判断している。
BISの自己資本率達成の
ための貸し渋り、アジアの
通貨危機も景気に追い打ち
をかけている。輸出の44%
がアジア向けであり、また
対外投資も影響は大きい。
財政再建の実施も基本的な
はデフレ要素が強い。
では、これらの状況下で
生き残るにはどうしたら良
いのか。

技術の先進性、ハイテク
加工、品質管理の水準、商
品の絶対的な質などはいま
だ日本が優位にある。個々
の企業が独自の質を誇れる
ものをもつ、あるいは画期的
な流通制度、販売システム
を確立するとかといった
特有のものを持つことによ
つて存続できるのではない
か。また規制緩和については
も今後注目すべきである。
特に不動産に関する用途指
定、容積率、建ぺい率、土
地取得税などの変更は変化
が予想され効果も大きい。
また日本の強みもある。安
い海運(例：ワイン1本欧
米より20円以下)を利用で
きる良好な港が多い。全土
に鉄道網、通信網が整備さ
れ、環境問題でも先進的な
数値を既に実現しているな
ど優位な点も認識すべきだ。
次に河井副会長より「橋
本内閣の評価は？」の質問
に答えて「一定の評価はで
きるが党の総裁、首相とし
て強いリーダーシップを望
みたい。景気は緊急事態と
の認識に立ち、早急に大規
模な対策が必要だ。商売と

同じで悪いと効果はないし、
小出しでも効果がない。政
府、日銀の発言にも変化が
あり、年末へ向け景気対策
を求める声は更に強くなり、
何らかの動きがあるだろう。
次に松田直前会長より東
京、大阪での若手経営者の
会議所参入、省庁再編と各
会議所のあり方の質問並び
に、各プロックを代表する
仙台・金沢・福岡での青年
部設立への働きかけをお願
いする旨の発言があった。
会頭は世代間の問題はど
の組織にもあるがコミュニ
ケーションを良くし、議論
の場を持つことが必要であ
る。また、将来の各地商工
会議所の対応については、
各々の独自性、地域性を考
慮し、議論を進めていただ
きたい。また仙台などの都
市の青年部設置については
直接会頭に商青連の希望を
伝える」と述べられた。

続いて吉本副会長より昨
年度の全国大会で出席の御
礼、北島理事より徳島の全
国大会の開催概要の説明が
あり、奈良の冷房の効いた
体育館の話などなごやかな
懇談となり大村会長の謝辞
にて終了となった。

稲葉会頭とは3回目の懇
談会であり、親しく話をし
ていただいた。8割の時間を
経済問題に費した。この
後、金融機関の支援策、2
兆円減税などようやく景気
対策が打ち出された。また
商工会議所のマール融資も
14万に増額されている。
本年はまさに正念場。稲葉
会頭には経済界のリーダー
として産業界の為に増々
活躍されんことをお祈りし
また青年部へ日頃よりのご
支援をいただいていること
に深く感謝申し上げる次第
である。

「第15回商工会議所青年部全国会長研修会 『掛川道場』を振り返って

掛川商工会議所青年部会長 河原崎逸雄



去る2月9日・10日の2
日間にわたり開催致しまし
た「第15回商工会議所青年
部全国会長研修会『掛川道
場』」には公私とも「多用
の中、北は北海道から南は
九州沖縄まで、全国各地か
ら青年部の皆様にご来会
賜り誠にありがとうございました。
本年度商青連活動
の最終を飾る「全国会長研
修会」を静岡県掛川市にて
開催させていただきましたこと
が出来ましたことを大変光栄
に存じます。

お陰様をもちまして、全
国会長研修会も過去15回中
最高の237名も過去718名
のご登録をいただき、本来
の目的でありました自身の
濃い研修会が開催出来、無
事大成功にて終了致すこと
が出来ました。これもひと
えに全国のYEG皆様方
のご協力があればこそ、掛
川YEG一同心より感謝申
上げます。同大会の運営
につきましては、メンバー
一丸となり総力を挙げて進
めて参りましたが、当日は
何かと不
行き届き
がござい
ます。ご容
赦の申し
上げです。
この度
の全国会
長研修会
では、多
数参加者
を賜り、
全員参加
型の研修
により、
平成9年
最後に
なりました
が、静岡
岡県掛川
市での全
国会長研

度商青連
スローガ
ン「直
接交流・
直接実
感」連携
そして共
生へYEG
新たな出
発」を実
践出来た
と確信し
ておりま
す。「掛
川道場」
研修会が
青年部相
互の「連携」及び各単会の
事業活動、さらに自己研鑽
につながれば幸いです。
私も掛川商工会議所青
年部も、本研修会を機に組
織の強化と活動の充実に向
め、各地商工会議所青年部
との連携をさらに強めるよ
う努力して参る所存でござ
いますので、皆様方の変
らぬご指導、ご鞭撻の程よ
ろしくお願い申し上げます。
最後に
なりました
が、静岡
岡県掛川
市での全
国会長研

全国商工会議所青年部連合会 第28回通常会員総会



平成10年度第16回 商工会議所青年部 全国 会長研修会

四国 架橋の街 「今治」で

今治YEG
会長 西原 透

青い国四国、その四国で最初に港が開かれたのは今治でした。以来我が町は今日まで海と共に栄えて参りました。
今この町に本州との新しい海の道がつながろうとしています。西瀬戸自動車道(せとうちしまなみ海道)は平成11年春の開通に向けて、今急ピッチで工事が進められています。
この架橋の街「今治」で平成11年2月、全国会長研修会は開催されます。波静かな瀬戸内の眺望に囲まれた穏やかな環境のなかで、当年度から次年度への大事な橋渡しの研修会を、140名のメンバーが心から設営させていただきます。より多くの単会の皆様のお越しをお待ちしております。

アジア商工会議所連合会 理事会開催

(CACCI)

副会長 河井 達志
専務理事 木川 総一郎
平成9年11月6日〜8日
に韓国済州島で開催された
アジア商工会議所連合会
(Confederation of Asia-
Pacific Chambers of
Commerce and Industry
-CACCI)
第56回理事会に同会議の議
長である大西正文大阪商工
会議所会頭(日商副会頭兼
務)の招撃で大村会長、足
立副会長、木川専務と4人
で参加しました。加盟国は
東・東南アジア諸国にオー
ストラリア、ニュージーラ
ンドを加えた21ヶ国です。
招撃された理由は2月にシ
ンガポールで開催された同
連合会の企画委員会の席上
で、国の活躍には青年経
済人の活躍が必要であり、
日本にはその活動を含め会
議所活動の啓蒙普及の目的
を包含する商工会議所青年
部が設置されており、活発
に活動している旨の話題が
出され、各国とも是非その
内容を聞きたいとの要望が
出たためであります。席上、
今後商



またJ
Cとの目
的の違
卒会年
の違
を説明
商青連
の15年
歩み、政
府(通産省)
よりの活
動助成金
等の支援
について
言及し、
今後も商

大村会長は、まず日本での
青年部設置率が81・6%と
高く、日本の商工会議所で
の組織化が進んでいること
を説明。次に後継者対策、
地域活性化のためのイベン
トの企画や実施、地域振興
ビジョンの策定、さらには
商工会議所活動に参加する
ことにより関心と理解を深
めるとい
う目的が
あること
を説明し
た。

若手官僚との交流会開催

平成9年12月2日、省庁
の垣根を超え、連携を図る
若手官僚のメンバー「湧志
会」との交流会を開催しま
した。本会は商青連の年度
を超えた理事有志が「連携
を超え」ることを目的に地
域交流センター(田中栄治
所長)と共催で開催したも
ので今回は第3回目となり

ます。平成6年度出向理事
から約20名と官僚の皆さん
15名の方々に出席頂き、基
調講話の後、各省庁での自
分の取り組み内容と自己紹
介と共に話を聞いて頂きま
した。また、商青連側も自分
の地域に関する連携事業の
説明をし、理解を求めまし
た。国の国土開発計画も連
携軸の制定から具体的な内
容に移り、パートナーシッ
プ事業として地域の主体性
を重んじて連携を図ろうと
しています。各青年部の活
躍を期待する由発言があり
ました。次年度も商青連理
事に本交流会のお知らせを
致しますので、日時をお確
かめのうえにご参加下さい。

平成10年度各委員会の事業計画

委員会名	検討事項
総務委員会	① 会員総会、役員会の開催 ② 日商幹部との懇談会 ③ 規約の見直し ④ ブロック大会開催への助言 ⑤ 商青連活動の情報提供と会員拡大 ⑥ その他(他の委員会に属さない事項の検討)
企画委員会	① 第18回全国大会(青森)への指導、助言 ② 第16回全国会長研修会(今治)の企画、運営、助言 ③ 全国大会、全国会長研修会、ブロック大会立候補の受理と検討
研修委員会	① YEGヤングリーダー研修の企画、開催 ② 翔生塾の企画、開催
広報委員会	① 機関誌「翔生」(第25、26号)の発行 ② 「石垣」「会議所ニュース」への青年部活動の掲載 ③ 商青連ホームページの作成 ④ ホームページコンクルの開催
特別委員会	① YEG連携事業の推進 ② 地域資源表及びブロック別委員会名簿の活用 ③ 小委員会による同業種交流の研究と促進 ④ 「ビジネス交流」の場作りの企画、検討
ブロック代表 理事会	① ブロック大会開催 ② 「ブロック別委員会名簿」の作成 ③ 各地青年部、都道府県連合会、ブロックの活動支援 ④ 県別、ブロック別諸会議の開催支援 ⑤ 未加入青年部の加入促進 ⑥ 青年部県連の設置促進 ⑦ ブロック内へ商青連活動の情報提供

「まっぴらはん、青森さ、こいへ!!」

第18回全国大会青森大会 実行委員長 後藤 薫

私たち青森商工会議所青年部は、「ぐっくる、どきっとする、ほっとする。感動シテイ青森」を招致スローガンに掲げ、大会開催への「思い」と「ビジョン」をコンセプトに平成10年11月全国大会・青森大会を開催します。

「思い」では、「全国の仲間へ感謝の気持ちを伝えたい」、「地域活性化の核になる決意を伝えたい」、そして「強力なYEGを作るため、互いの切磋琢磨を呼びかけたい」とアピールしました。

青森県は、その自然の豊かさから食べるものにも、そして祭りや歴史、文化などでも全国に胸を張れるものがそろっています。特に500年以上の昔の縄文集落、三内丸山遺跡が発掘されてからは日本中に縄文ブームを起こしています。それだけでなく何よりも、青森に住んでいる人々のすばらしさ、秘めたエネルギー、それらを私たち自身が体現して全国に「伝えたい」と思うのです。

「ビジョン」では、「地域と地域、地域内外の結び手」、「市民と市民、市民と行政との結び手」、「地域政策と実行の結び手」、「会議所の組織と会員、商工業と地域産業の結び手」となることを宣言しました。

なすれば「一致団結して」ことをなすことが若手と言われる青森の人々。これまで地域内外と手を結び、そうすることによって個で活動するよりもはるかに大きな可能性が得られることを実感しました。全国大会では、青森と全国とを、東北の青森ではなく、日本の青森という位置付けで「結びたい」と強く思うのです。

どんなに素晴らしい計画でも、それが具体化され実行されなければ画餅にすぎません。私たちは自ら発案したことを行政に依存するのではなく、私たち自身で実行するよう努めてきました。全国の仲間には様々な取組み方を学んでいきたいと思えます。多くの可能性とともに存在する課題はありますが、それに懸する課題はあり、向かっていく、そして「かなえない」、そのためのステップとして全国大会を位置付けたいと思うのです。

伝えたい、結びたい、かなえない、それぞれの思いがとけあう。北のまち、縄文の都(まち)。青森

このコンセプトワードのもと、「日本の鼓動が響きあう、縄文の森YEG」を開催キヤッチフレーズに、平成10年11月5日〜7日、ねがた祭りにみられる津軽人のもつエネルギーと、縄文文化の流れを受け継いで築いてきた、東北青森のすばらしさをこの「青森の地」で全国の仲間には是非とも実感してもらいたいと思っていま

